

# 事業群評価調書(令和3年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 生涯学習課	山崎 由美
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)		
事業群名	⑤ 表現力や創造力を高める子どもの読書活動の推進	令和2年度事業費(千円)	※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額	558

## 1. 計画等概要

(長崎県総合計画テュンヅ&チュレンヅ2025 本文)		(取組項目)							
読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであるため、家庭・地域・学校における読書関係者が相互に連携し、県民総がかりで子どもの読書活動を推進し、読書環境を整備することで子どもが自発的に読書に親しむよう促します。		i) 司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援 ii) 「長崎県の子どもにすすめる本500選」の改訂 iii) 中学生ビブリオバトル <sup>※</sup> 大会の実施  ※ビブリオバトル: 出場者一人一人がお気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力などを紹介する書評合戦							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 第四次長崎県子ども読書活動推進計画(R元~R5)に基づき、子どもの発達段階に応じた読書習慣の形成を図る取組と読書関係者の資質向上を図る取組を進めている。 小・中学生の不読者率は低い値で推移しており、取組の成果が見られるが、高校生の不読者率は令和2年度12.6%となった。学校段階が上がるにつれて不読者率が上昇する理由としては、部活動や進路実現に向けた取組等により、読書に使える時間の確保が難しくなっていることや、スマートフォン等の普及による若者の活字離れの影響が考えられる。
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※小学生	目標値①	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	小学生 1%以下 (R7)	
	実績値②	小学生0.2% (R元)						進捗状況	
	達成率②/①							—	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※中学生	目標値①	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	中学生 1%以下 (R7)	
	実績値②	中学生1.0% (R元)						進捗状況	
	達成率②/①							—	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※高校生	目標値①	12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	高校生12%以下 (R7)		
実績値②	高校生12.3% (R元)						進捗状況		
達成率②/①							—		

## 2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和2年度事業の実施状況 (令和3年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和2年度事業の成果等
				R元実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R元目標	R元実績	達成率	
				R2実績					R2目標	R2実績		
				R3計画	R3目標	R3実績						
事業実施の根拠法令条項				事業実施の根拠法令条項								
事業期間				法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象					
所管課(室)名												
取組項目 ii iii	○	1	ミライon(未来につなぐ)子ども読書活動推進事業費	1,518	1,518	12,726	司書教諭等研修会、図書ボランティア研修会等を開催し、読書活動を推進する人たちの資質向上と連携強化を図った。 「長崎県の子どもにすすめる本500選・精選版」の周知に努め、小学1年生とその保護者には、入学時に「家庭読書啓発リーフレット」を配付した。 「県中学生ビブリオバトル大会」の中止に伴う代替措置として、「長崎県中学生書評発表会」を開催した。県の公式YouTubeチャンネルで期間限定配信し、県内中学生の読書への興味・関心の喚起を図った。 高文連図書専門部・県立長崎図書館と連携し「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」を選書・広報することで高校生の読書への興味・関心の喚起を図った。	【活動指標】 地域の図書ボランティアに対する研修会の実施市町数(市町)	5	5	100%	●事業の成果 ・読書関係者を対象とした研修会の開催や、発達段階に応じた子どもの読書習慣の形成を図る一連の取組により、小・中学生の不読者率は目標を達成した。
				558	558	7,042		【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※小学生	1.0以下	0.2	100%	
				1,286	1,286	8,638		【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※小学生	1.0以下	0.2	100%	
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※小学生	1.0以下	1	100%	
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※中学生	1.0以下	0.5	100%	
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※中学生	1.0以下			
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※高校生	12.0以下	12.3	98%	
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※高校生	12.0以下	12.6	95%	
								【成果指標】 不読者率(1ヶ月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%)※高校生	12.0以下			
			R元-5									
			生涯学習課	○	—	—	家庭・地域・学校					

## 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>司書教諭等研修会は、学校図書館の運営についての基本的な内容や具体例を学ぶ機会として、司書教諭新規発令者の支援の場となっている。図書ボランティア研修会では、地域のニーズに合わせた研修を行うことで、参加者の満足度も高い(R元:96.8%、R2:93.2%)。今後は、目的・対象に応じた研修内容の更なる充実と、実施方法の工夫・改善が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>各研修会において、開催地や参加者のニーズを踏まえた上で、図書館環境づくりなど実践につながる研修プログラムを実施する。また、従来の実施方法を踏襲するだけでなく、状況に応じた方法(オンライン)を取り入れるなど、学びの機会を保障する方策について検討する。</p>
ii	「長崎県の子どもにすすめる本500選」の改訂	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和元年度に精選版を選定し、乳幼児向けのリストを作成したことから、読書関係者の選書の参考とすることができた。本課ホームページにリストを掲載し、ダウンロードできるようにしているが、入手方法に関する問合せがあるため、よりいっそう周知に努める必要がある。また、こども園等小学生未満を対象とする読書関係者への情報提供の機会や方法が少ないことが課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>読書関係者向けの研修会の会場に500選図書を展示したり、本課ホームページを紹介するチラシを配布するなど、目に触れる・手に届く情報提供に努めるとともに、関係課との連携を図り、情報提供の場を積極的に獲得していく。</p>
iii	中学生ビブリオバトル大会の実施	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせ、代替措置として書評発表会を行った。参加市町数が減少したため、動画配信についての周知等に工夫が必要である。また、ビブリオバトル大会開催にあたっては、市町や学校での予選開催を促すなど、すそ野拡大を図っていくことが課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>動画配信による代替措置については、中学生や教師への周知を図るうえで効果的な広報媒体を検討するとともに、動画のプログラム構成等を工夫していく。 また、大会予選の実施を促すため、市町や学校にビブリオバトル実施に関する参考資料等を積極的に提供していく。</p>

#### 4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和3年度事業の実施にあたり見直した内容	令和4年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i ii iii	○	1	ミライon(未来につながる)子ども読書活動推進事業費 R元-5 生涯学習課	※令和3年度の新たな取組は「R3新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載 高文連図書専門部と連携し、「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」の選書テーマを高校生自身が設定することにより、一層の興味・関心の喚起を図る。 司書教諭等を対象とした研修会において、講義に加え、図書館環境づくりに関する演習プログラムを実施する。	②	発達段階に応じた子どもの読書習慣の形成を図る一連の取組を継続するとともに、特に高校生の不読者率改善に向けた取組の充実を図る。 目的・対象に応じた研修プログラムの改善・充実を図るとともに、地域の実情や新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた細やかな読書活動支援を進めていく。	改善

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点